



# News Release

チャールズ・ブロンソン氏ご逝去の報に接し  
取締役社長 西村元延 追悼の言葉

チャールズ・ブロンソン氏ファンの皆様へ

- ・出演CM資料提供について
- ・出演CM撮影記録
- ・ブロンソン氏プロフィール

## チャールズ・ブロンソン氏ご逝去の報に接し

1960年代後半、当時丹頂株式会社と名乗っていた当社は、競合企業との市場競争が激化し、経営的に非常に困難を極めた時期でした。

1970年発売の「マンダム」は、そんな状況を打開すべく企業そのものの大転換を図る切り札としたい、まさに社運を賭して発売したブランドであり、「マンダム」の広告キャラクターには、それだけのパワーと存在感が必要だったのです。

当時、男性化粧品の広告キャラクターは若くスマートな二枚目路線というケースがほとんどでしたが、当時の社長西村彦次は「常識の逆をいく」という信念のもと、“最も男くさく野性的な男”の象徴ともいえる、チャールズ・ブロンソン氏を起用しました。20代をターゲットとするブランドに47歳のブロンソン氏、現役のハリウッドスター、本格的な海外ロケ、イメージソングの海外レコーディングなど、当時では画期的で型破りな広告だったといえましょう。

ロケ中のミーティングで、十分生えそろうていないあごひげをなでながら「う～ん」と演技について考え込むブロンソン氏の姿を見た大林宣彦監督が「それで行こう！」とひらめいたのが、今でも語り継がれている「う～ん、マンダム」というフレーズの誕生でした。

その後「マンダム」ブランドは、急速に認知拡大を図り広告とともに大ヒットし、翌年には株式会社マンダムと社名を変更するに至りました。

あれから30余年、ハリウッドスターの厳しいプロフェッショナル性、スタッフに対する暖かな思いやり、その場を和ませるユーモアなど、ブロンソン氏のすばらしいパーソナリティも、「う～ん、マンダム」とともに、当社内に語り継がれております。

ブロンソン氏の突然の訃報に接し、誠に寂しい限りです。

あらためて心から感謝申しあげ、謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

2003年9月1日

株式会社マンダム

取締役社長 西村元延

## チャールズ・ブロンソン氏ファンの皆様へ

### 【出演CM資料提供について】

ファンの皆様より、コマーシャルの再放送・写真やポスターの貸し出し等のご要望が多数寄せられております。まことに申し訳ございませんが、ブロンソン氏とのコマーシャル契約はすでに終了しており、肖像権等の関係上ご要望に沿うことが出来ません。

マンダムの社史のみに足跡を残しておりますので、ご覧くだされば幸いです。また、テレビの報道時に放送されましたブロンソン氏のコマーシャルは、放送局独自の責任で許諾を得られたものであり、当社からの素材提供ではありません。

なにとぞ状況をご理解の上ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

広報IR室

### 【出演CM撮影記録】

6回の撮影で63種のCMを制作しました。

1970年4月：アメリカ・ロサンジェルス のGWPCスタジオ

(元ユニバーサル・シネマのスタジオ)

1970年5月：ロサンジェルス の市外&アリゾナ州モニュメントヴァレー

(スティールはニューヨークのマンハッタン)

1971年1月：ロサンジェルス のGWPCスタジオ

1972年6月：ロサンジェルス のGWPCスタジオ&ヨットハーバー

1973年9月：バーモント州ホワイトトリバー・ジャンクション

1979年7月：バーモント州ホワイトトリバー・ジャンクション

### 【ブロンソン氏プロフィール】

1921年11月3日 米国ペンシルベニア州アーレンフェルド生まれ。81歳。

1943年 空軍入隊。第2次世界大戦後除隊。

1951年 映画デビュー

1960年 「荒野の7人」

1963年 「大脱走」

1968年 「さらば友よ」

1970年 マンダムとコマーシャル契約 「夜の訪問者」「狼の挽歌」

1979年 マンダムのCMに、息子トニーと共演

2003年8月30日 肺炎のため逝去